

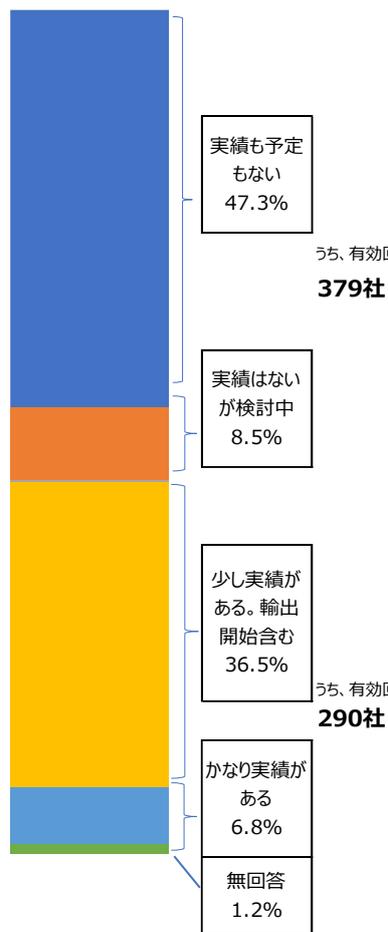
要 約

【食品製造業の輸出取組概況】

食品製造業を対象とした本調査で回答のあった702社における輸出の取組は、現在、輸出実績なしが56%（391社）、輸出実績ありが43%（303社）あった。

輸出実績があり、うち輸出額が判明している271社についてみると、輸出額1千万円未満が44%、1千万以上1億円未満が27%、1億円以上5億円未満が19%であった。また、輸出事業のライフサイクルについてみると、導入期及び成長期が半数を超えることから、輸出市場はかなり市場成長の余地が大きいとみていることがわかる。

食品製造業 702社



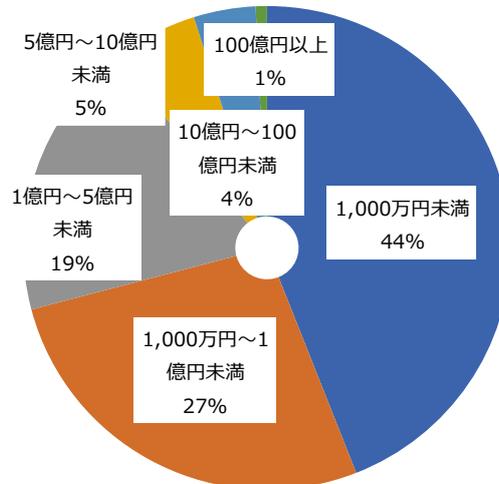
輸出に取り組まない理由

単位：%



輸出額（直近1年、1社当たり）

単位：%



輸出事業のライフサイクルについて

単位：%



輸出事業の収益性

単位：%



【国産原料を使用した加工食品の輸出市場の現状】

加工食品の主な輸出品目・商品の主原料に占める国産原料の使用量割合は、9割以上が43%であった。また、主な輸出品目・商品の現地販売価格と比較すると、平均2.2倍であった。

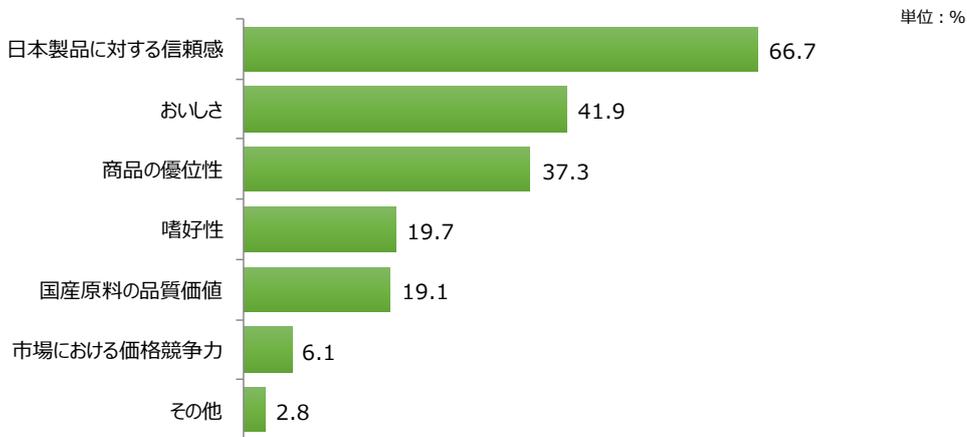
主な輸出商品の輸出国における市場獲得の要因は、「日本製品に対する信頼感」であり、国産原料の価値やおいしさを含めて、大きいことがうかがえる。

今後の輸出可能性についてみると、「拡大の余地がある」が半数を超え、次いで「競合品との競争次第」が30%、「既に飽和状態」は8%にすぎない。成長の余地が大きいとみていることがわかる。

主な輸出商品の主原料に占める国産原料の使用量割合 → 9割以上が43%

主な輸出商品の現地販売価格との比較 → 2.2倍

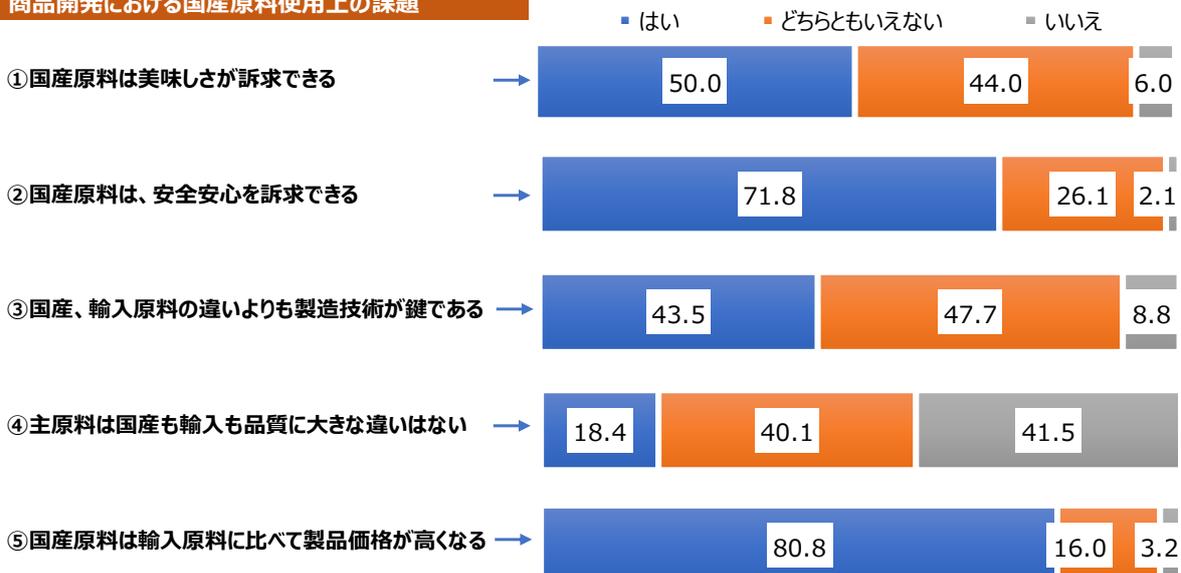
主な輸出商品の輸出国における市場獲得の要因



主な輸出商品の今後の輸出可能性について



商品開発における国産原料使用上の課題



【加工食品輸出の目標と課題】

食品製造業における加工食品の5年後の輸出額目標は、「50%以上」と「10%以上」が24%で最も多く、次いで「10%未満」が16%、「30%以上」が9%で、全体的に輸出目標額は拡大意向がかなり強い。

加工食品の輸出において直面する問題点・課題は、「輸出相手国の食品安全規制」が53%で最も多く、次いで「海外のマーケット情報の欠如」が31%、「輸出業者とのパートナーシップ」が25%、「輸出手続き」が18%、「輸出商品の開発」が16%、「輸出事業の企画・販売促進」が10%、「輸出事業の収益性」が10%となっている。以上を踏まえると、食品安全規制、市場情報、サプライチェーンの構築に直面しており、収益性は大きな課題とはなっていない。このことから加工食品輸出市場の成長が期待される。

